

データバックアップソフトウェア BZR-10

1. 概要

1-1. このソフトウェアについて

BZR-10は、S-BUSラインにより接続されたルーティングスイッチャーシステムの、データバックアップのためのソフトウェアです。

下記に示すデジタルルーティングスイッチャーに付属しています。

DVS-V3232B (Serial No. 10126 以降)

DVS-V6464B (Serial No. 10176 以降)

BZR-10は、1次局に接続したパーソナルコンピュータ(以下、PCと称す)にインストールして使用します。BZR-10を使うことにより、現在のシステムデータを入手(アップロード)し、フロッピーディスクやハードディスクに保存することができます。保存したデータは、1次局を介してダウンロードすることができます。したがって、万一の事故によりシステムデータが失われても、あらかじめ保存しておいたデータを用いて、速やかに修復・復元することが可能です。また、保存データを利用して、オフラインでディスクリプション名称やクロスポイントの簡易編集を行なうことができます。

1次局スイッチャーのREMOTE 3端子(RS-232Cポート)は、BZR-10によるバックアップ機能を含め、下記に示す3種類の機能を持っています。

バックアップモード：

S-BUSシステムにより設定されたシステムデータのバックアップのために、BZR-10を使用して動作するモードです。

ターミナルモード：

ターミナルからシステム設定を行なうモードです。

設定手順の詳細は、付属のソフトウェアインストールションマニュアル(3-184-283**)を参照してください。

ISRモード：

ISR (Interactive Status Reporting) *1 通信を行なうモードです。

*1: ISRの内容や購入については、ソニーの販売担当にご相談ください。

参考

モード選択は、次の要領で行ないます。

バックアップモード：

1次局のCPU-149基板上のTERM/ISRスイッチ(S4-3)を、TERM側に設定する。

1次局の電源を入れ、PC上のBZR-10を起動する。

ターミナルモード：

1次局のCPU-149基板上のTERM/ISRスイッチ(S4-3)を、TERM側に設定する。

1次局の電源を入れ、PCのターミナルを起動して「Ctrl」キーと「X」キーを同時押しする。

(以下、複数キーの同時押しを「Ctrl+X」のように表示する。)

ISRモード：

1次局のCPU-149基板上のTERM/ISRスイッチ(S4-3)を、ISR側に設定する。

1-2. 使用上の注意

- (1) BZR-10を扱うには、MS-DOSの知識やシステムの管理・保守に関する知識が必要です。このマニュアルも、システム／サービスエンジニアの方々を対象に解説しています。それ以外の方が使用すると、データを消失する恐れがあります。
- (2) バックアップ機能に対応しているソフトウェアは次のとおりです。

1 次局：バージョン 2.10 以上の DVS-V3232B/V6464B
2 次局：バージョン 2.00 以上の DVS-V3232B/V6464B
およびバージョン 3.00 以上の BKS-R1601/R3202/R3203/R3204/R3205/R3206/R3280/R3281
- (3) BZR-10によりバックアップされる 1 次局のデータは、ステータス情報および 1 次局の全ての設定データです。2 次局でバックアップされるデータは、2 次局の設定データとクロスポイントデータです。BZR-10に対応していない機種については、データをバックアップできません。
- (4) BZR-10は、ルーティングスイッチャーコントロールソフトウェア BZR-1000と共存することができません。バックアップ操作を開始する前に、あらかじめ BZR-1000を終了してください。
なお、バックアップ終了後に BZR-1000を起動する場合は、1 次局の設定メニュー「Z:SET UNIT DETECTABLE」を呼び出して、全ての 2 次局の設定を OFF（“?”マークおよび製品コードを消すこと）にしてください。
- (5) 2 次局のデータをバックアップするときは、バックアップ操作を開始する前に、対象となる 2 次局の ID を設定メニュー「Z:SET UNIT DETECTABLE」でイネーブル（“?”マークを付けること）に設定してください。

1-3. 動作環境

- (1) BZR-10は、バージョン 6.2 の MS-DOS 上、および Windows '95 の DOS モード上で動作します。
- (2) PC は、MS-DOS とターミナルソフトウェアを搭載した IBM PC/AT 互換機を使用してください。
- (3) PC を接続する 1 次局のスイッチャーは、バージョン 2.10 以上の DVS-V6464B/V3232B のみ有効です。
- (4) BZR-10は、S-BUS リンク上の通信に割り込んで機能します。そのためプログラムの実行は、システムを運用していない（操作していない）ときに行なってください。
- (5) BZR-10に対応していない 2 次局のデータは、アップロードすることができません。未対応機種に対してバックアップ操作を行なうと、通信が中断することがあります。
S-BUS リンク上に未対応機種が接続されている場合、1 次局の設定メニュー「Z:SET UNIT DETECTABLE」で、該当する 2 次局の設定を OFF にしてください。

2. 起動と操作

2-1. BZR-10 のインストール手順

- (1) BZR-10 のフロッピーディスク（以下、FD と称す）を PC のドライブに挿入する。
- (2) FD を入れたドライブ（ここでは“A”）に移動し、BZR-10 ソフトウェアをハードディスク（以下、HD と称す）にインストールする。

```
C: \> A: ␣*1  
A: \> install C: ␣
```

と入力する。

- (3) MS-DOS の EDIT コマンドを使って、AUTOEXEC.BAT にパスを追加する。

```
A: \> C: ␣  
C: \> edit autoexec. bat ␣
```

と入力し、AUTOEXEC. BAT に “C: \V6464B” を追記する。

```
PATHC: \; C: \VZ; C: \TOOLS\BAT; .... ; C: \V6464B
```

- (4) パスを追加した AUTOEXEC. BAT ファイルをセーブし、EDIT コマンドを終了する。
- (5) 「Ctrl + Alt + Del」を押し、PC を再スタートする。

*1: “␣” は、ENTER キーを押すことを意味しています。

2-2. メニュー画面の構成

BZR-10のメニューは、「機能選択メニュー」と「実行選択メニュー」の2階層から構成されています。「機能選択メニュー」の中から任意の項目を選択すると、そのメニュー項目の「実行選択メニュー」画面に移ります。

次に「実行選択メニュー」の中から任意の項目を選択すると、動作を開始します。

機能選択メニュー

```
[[[ Routing Switcher Data Backup Software ]]]
[[[           BZR-10  V1.00           ]]]

1.  RECEIVE: from routing switcher
2.  EDIT
3.  SEND: to routing switcher
- - - - -
9.  QUIT
..... Select a menu item
```

- ・「1」～「3」：各メニュー項目の下層にある「実行選択メニュー」画面に移ります。
- ・「9」：DOS環境に戻ります。

実行選択メニュー

「1. RECEIVE」を選択した場合：

```
[[[ Receive Menu ]]]

1.  All the data of primary station
2.  The data of secondary stations
3.  Description names
4.  Crosspoint data
- - - - -
9.  Quit
..... Select a menu item
```

[1. All the data of primary station]

1次局に設定された全てのデータをバックアップします。

[2. The data of secondary stations]

1次局の設定メニュー「Z」で指定した2次局のデータをバックアップします。

例：下図の設定では、ID:2-10に該当する2次局のデータがバックアップされます。

(“?”マークが、イネーブルを意味します。)

SET UNIT	DETECTABLE	DVS-V6464B V2.10															STATION NUMBER 1				
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
								+													
001-020	M	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?										
021-040																					
041-060																					
061-080																					
081-100																					
101-120																					

[3. Description names]

1次局に記録されたディスクリプション名称データをバックアップします。

[4. Crosspoint data]

現在のクロスポイントデータをバックアップします。

[9. Quit]

「機能選択メニュー」に戻ります。

「2. EDIT」を選択した場合：

```
[[[ Convert / Edit menu ]]]  
  
1. Convert Description name data file to ASCII file  
2. Convert Crosspoint data file to ASCII file  
3. Edit ASCII file of Description names  
4. Edit ASCII file of Crosspoints  
-----  
9. Quit  
..... Select a menu item
```

[1. Convert Description name data file to ASCII file]

バックアップされているディスクリプション名称データを、テキストデータに変換します。

[2. Convert Crosspoint data file to ASCII file]

バックアップされているクロスポイントデータを、テキストデータに変換します。

[3. Edit ASCII file of Description names]

ディスクリプション名称のテキストデータを編集します。

編集が終了すると、ディスクリプション名称データに戻します。

[4. Edit ASCII file of Crosspoints]

クロスポイントのテキストデータを編集します。

編集が終了すると、クロスポイントデータに戻します。

[9. Quit]

「機能選択メニュー」に戻ります。

「3. SEND」を選択した場合：

```
[[[ Send Menu ]]]  
  
1. All the data of primary station  
2. The data of secondary stations  
3. Description names  
4. Crosspoint data  
-----  
9. Quit  
..... Select a menu item
```

[1. All the data of primary station]

保存されている設定データを1次局に送ります。

[2. The data of secondary stations]

保存されている設定データを2次局に送ります。

[3. Description names]

ディスクリプション名称データを1次局に送り、その後S-BUSリンクに接続されている全ての2次局に送信します。

[4. Crosspoint data]

保存されているクロスポイントデータに従って、クロスポイントを切り換えます。

[9. Quit]

「機能選択メニュー」に戻ります。

2-3. バックアップモードの操作

2-3-1. データのアップロード

2-1項にしたがってBZR-10をインストールした後、以下の手順を行ないます。

- (1) S-BUSリンクを構成する全ての機器の電源を入れる。
- (2) RS-232C クロスケーブル (9P-25P) を使用して、1次局スイッチャーのREMOTE 3 端子にPCを接続する。
- (3) 1次局のCPU-149 基板上のTERM/ISR スイッチ (S43) を、TERM 側に設定する。
- (4) PCの電源を入れる。
BZR-1000 を使用している場合は、これを終了してDOS環境に戻る。
- (5) PCのターミナルソフトウェアを起動する。
- (6) 「Ctrl+X」を押して、1次局のメニュー画面を呼び出す。
- (7) 「Z:SET UNIT DETECTABLE」を選択し、データの保存を希望する2次局の設定をイネーブルにする。
(ターミナルモードでのメニュー画面や設定方法の詳細は、スイッチャーに付属のソフトウェアインストールレーションマニュアルを参照してください。)
- (8) 「Ctrl+X」を押して、1次局のメニュー画面に戻る。
- (9) ターミナルソフトウェアを終了し、DOS環境に戻る。
- (10) データを保存するため、フォーマット済みのFDをPCのドライブに挿入する。

C:\>A:」 A:\>A」

と入力する。

注意

“A”は、バックアップソフトウェアを起動するためのコマンドです。

- (11)「機能選択メニュー」の「1. RECEIVE」を選択する。

PCのディスプレイに「実行選択メニュー」画面が表示されます。

- (12)「実行選択メニュー」のうち、「1. All the data of primary station」を選択する。
2次局のデータをバックアップする場合は、「2. The data of secondary stations」を選択する。
データがFDにバックアップされます。
- (13) [9. Quit] を2度続けて選択し、バックアップモードを終了する。
PCはDOS環境に戻ります。
- (14) ターミナルソフトウェアを起動する。
- (15)「Ctrl + X」を押して、1次局のメニュー画面を呼び出す。
- (16)「Z: SET UNIT DETECTABLE」を選択し、2次局の設定を変更する。
・ BZR-1000を使用しない場合：もとの設定に戻す。
・ BZR-1000を使用する場合：S-BUSリンクに接続された全ての2次局の設定を、OFFにする。
(ターミナルモードでのメニュー画面や設定方法の詳細は、スイッチャーに付属のインストレーションマニュアル [ソフトウェア] を参照してください。)
- (17) ターミナルソフトウェアを終了する。
- (18) BZR-1000を使用する場合は、これを起動する。

2-3-2. データのダウンロード

2-1項にしたがってBZR-10をインストールした後、以下の手順を行ないます。

- (1) データを記録したFDをPCのドライブに挿入する。

C:\>A: ␣
A:\>A ␣

と入力する。

注意

“A”は、バックアップソフトウェアを起動するためのコマンドです。

- (2) 「機能選択メニュー」の「3. SEND」を選択する。
PCのディスプレイに「実行選択メニュー」画面が表示されます。
- (3) 「実行選択メニュー」のうち、「1. All the data of primary station」を選択する。
保存していたデータが、1次局にダウンロードされます。
2次局のデータを復元する場合は、「2. The data of secondary stations」を選択してください。
- (4) [9. Quit] を2度選択し、バックアップモードを終了する。
PCはDOS環境に戻ります。
- (5) 2-3-1項の手順 (5) ～ (9) を行なう。

2-4. 編集操作

2-4-1. ディスクリプション名称の編集

BZR-10には、1次局からアップロードしたデータを元に、ディスクリプション名称を編集する機能があります。

2-1項にしたがってBZR-10をインストールした後、以下の手順を行ないます。

- (1) データを保存するため、フォーマット済みのFDをPCのドライブに挿入する。

```
C:\>A:「  
A:\>A」
```

と入力する。

注意

“A”は、バックアップソフトウェアを起動するためのコマンドです。

- (2) 「機能選択メニュー」の「1. RECEIVE」を選択する。
PCのディスプレイに「実行選択メニュー」画面が表示されます。
- (3) 「実行選択メニュー」のうち、「3. Description names」を選択する。
1次局のディスクリプション名称データがFDにバックアップされます。
- (4) [9. Quit]を選択して「機能選択メニュー」に戻る。
- (5) 「機能選択メニュー」の「2. EDIT」を選択する。
PCのディスプレイに「実行選択メニュー」画面が表示されます。
- (6) 「実行選択メニュー」のうち、「1. Convert Description name data file to ASCII file」を選択する。
保存したデータがテキストデータに変換され、“SBUS_NME.TXT”ファイルを作成します。
- (7) 「実行選択メニュー」のうち、「3. Edit ASCII file of Description names」を選択し、
次に示す要領で編集を行なう。

編集画面例：

```
1:S1 .IN001 :CAM1  
2:D11 .OUT011 :VTR5  
3:S12 .IN012 :      ← 名称が記入されていなくても登録は有効です。  
  
160:S120.in012 :ENG5  
161:S038.D2001 :NET3 ← 161以降は、コメントとして保存されます。
```

- ・テキストは、端子番号、タイプ+番号、ディスクリプション名称の順に表示されます。
- ・端子番号は、Sがソース（入力）、Dがデスティネーション（出力）を意味します。
S1からS512までとD1からD512までが編集可能な端子番号となります。
なお、この編集メニューでは、端子番号とタイプ+番号を編集することはできません。
- ・ディスクリプション名称には、最大16文字を記入する事ができます。
ただし、表示ユニットによっては、表示文字数が制限されることがあります。

・文字の種類としては、英数字および記号を使うことができます。

注意

“;”はコメントの記号として使用するため、名称に使うことはできません。

S1 .IN001 :NET12.06 ; ← この位置から行末までコメントを
記入することができます。

・テキストは、1行で完結しているため、番号順に並べる必要はありません。

(8) 編集が終了したら、[9. Quit] を選択して「機能選択メニュー」に戻る。

編集したテキストデータは、自動的に1次局に送信するためのデータに変換されます。

このとき、もし変換できない部分があれば、その行番号を表示してからデータ変換を中止します。

その場合は、再度編集メニューに戻り、不適当な文字を修正してください。

データ変換は、編集したテキスト行の1から160行までを、元のデータに上書きします。

そして、新しい名称グループ1として登録します。161行以降のテキストは、新たに

「実行選択メニュー」の「3. Description names」を行なうまで、テキストとして保存されます。

なお、使用するエディターで行番号を表示させると、有効行がわかりやすいため便利です。

(9) [9. Quit] を選択し、BZR-10を終了する。

PCはDOS環境に戻ります。

注意

[1. Convert Description name data file to ASCII file] を実行すると、元のテキストファイルは削除されます。

2-4-2. クロスポイントの編集

BZR-10には、1次局からアップロードしたデータを元に、クロスポイントを編集する機能があります。

2-1項にしたがってBZR-10をインストールした後、以下の手順を行ないます。

(1) データをアップロードするため、フォーマット済みのFDをPCのドライブに挿入する。

C:\>A:」

A:\>A」

と入力する。

注意

“A”は、バックアップソフトウェアを起動するためのコマンドです。

(2) 「機能選択メニュー」の「1. RECEIVE」を選択する。

PCのディスプレイに「実行選択メニュー」画面が表示されます。

(3) 「実行選択メニュー」のうち、「4. Crosspoint data」を選択する。

1次局のクロスポイントデータがFDにバックアップされます。

- (4) [9. Quit] を選択して「機能選択メニュー」に戻る。
- (5) 「機能選択メニュー」の「2. EDIT」を選択する。
PCのディスプレイに「実行選択メニュー」画面が表示されます。
- (6) 「実行選択メニュー」のうち、「2. Convert Crosspoint data file to ASCII file」を選択する。
保存したデータが、テキストデータに変換され、“SBUS_XPT.TXT”ファイルが作成されます。
- (7) 「実行選択メニュー」のうち、「4. Edit ASCII file of Crosspoints」を選択し、次に示す要領で編集を行なう。

編集画面例：

L1.001.S1	
L1.4.S5	← 番号の始めに“0”を記入しなくても有効です。
L1.003.S6	
L1.010.	← ソース番号の記入がなければ、切り換え要求を出力しません。

- ・テキストは、レベル番号、デスティネーション番号、ソース番号の順に表示されます。
- ・レベル番号は、レベル1（L1）からレベル8（L8）です。
- ・“;”を使用して、テキスト内にコメントを記入することができます。

L1.004.S5 ;	← この位置から行末までコメントを記入することができます。
-------------	-------------------------------

- ・テキストは、1行で完結しているため、番号順に並べる必要はありません。
- (8) 編集が終了したら、[9. Quit] を選択して「機能選択メニュー」に戻る。
編集したテキストデータは、自動的に1次局に送信するためのデータに変換されます。
このとき、もし変換できない部分があれば、その行番号を表示してからデータ変換を中止します。その場合には、再度編集メニューに戻り、不適當な文字を修正してください。

データ変換は、編集したテキスト行の全てが有効です。

- (9) [9. Quit] を選択し、BZR-10を終了する。
PCはDOS環境に戻ります。

注意

[2. Convert Crosspoint data file to ASCII file] を実行すると、元のテキストファイルは削除されます。

参考**エディターのカスタム対応：**

このマニュアルでは、MS-DOSに付属のエディター“EDIT”の使用を前提に説明していますが、それ以外のエディターを使用することもできます。その場合は、パッチファイルの“EDIT”を、アプリケーションに応じて変更してください。

: CC3

CALL EDIT SBUS_NME.TXT

↳ EDITOR 名称に変える

: CC4

CALL EDIT SBUS_XPT.TXT

↳ EDITOR 名称に変える

BZR-10 の構成：

ファイル名	機能
A BAT	EX1 の実行パッチファイル
EX1 BAT	メインパッチファイルで、表示と手順が記入されている
README.TXT	操作手順の解説
TXTTNAME EXE	ディスクリプション名称のテキストをデータに変換する
NAMETEXT EXE	ディスクリプション名称のデータをテキストに変換する
TXTOXPT EXE	クロスポイントのテキストをデータに変換する
XPTTOTXT EXE	クロスポイントのデータをテキストに変換する
UPDOWN EXE	送信／受信を実行する
INSTALL BAT	インストール・プログラム
CLR_DATA <DIR>	
SBUS_LVG DAT	データを消すための PHYSICAL ASSIGNMENT データ
SBUS_INH DAT	データを消すための INHIBIT TABLE データ
SBUS_NME DAT	データを消すための DESCRIPTION NAME GROUP データ

注意

CLR_DATA<DIR>の各ファイルは、フロッピーディスクからハードディスク上の V6464<DIR>へコピーして使用します。

DATA BACKUP SOFTWARE BZR-10

1. Outline

1-1. On This Software

The BZR-10 is the software to backup the data of the routing switcher system which is connected by the S-BUS line.

This software is supplied with the following digital routing switchers.

DVS-V3232B (serial number 10126 and higher)

DVS-V6464B (serial number 10176 and higher)

Install the BZR-10 to the personal computer (abbreviated as PC hereafter) which is connected to the primary stations. The BZR-10 enables to upload the current system data, and to store the current system data in a floppy disk or hard disk. The stored data can be downloaded to the digital routing switcher via the primary station. If the system data is lost by some accidents, the already stored data enables immediate restoration and recovery. The off-line simple editings of the description names and crosspoints are possible by using the stored data.

The REMOTE 3 terminal (RS-232C port) of the primary station has the following three modes including the BZR-10 backup function.

(1) Backup mode:

Use this mode with BZR-10 to backup the system data that is set by the S-BUS system.

(2) Terminal mode:

Use this mode to setup the system of the S-BUS data link using the terminal. For details of setup procedures, refer to the installation manual of software (3-184-283-**) which is supplied with the routing switcher.

(3) ISR mode:

Use this mode to establish the IRS (Interactive Status Reporting)*1 communication.

*1: Consult your Sony dealer for the availability of the ISR.

Note

Select the modes as follows:

(1) Backup mode:

Set the TERM/ISR (S4-3) switch on the CPU-149 board of the primary station to the TERM position.

Turn on the power of the primary station and start up the BZR-10 of the PC.

(2) Terminal mode:

Set the TERM/ISR (S4-3) switch on the CPU-149 board of the primary station to the TERM position.

Turn on the power of the primary station, and use the Ctrl-X key combination to start up the BZR-10 program.

(3) ISR mode:

Set the TERM/ISR (S4-3) switch on the CPU-149 board of the primary station to the ISR position.

1-2. Notes On Operating This Software

(1) BZR-10 installation and its operation require the knowledge of MS-DOS and routing switcher system. Therefore, this manual aims at the system engineer and service engineer. If this software is operated by the personnel who are not qualified for the system, data may be deleted.

(2) The software which supports the BZR-10 is as follows:

- * Primary station: Version 2.10 or higher for DVS-V3232B and DVS-V6464B
- * Secondary station: Version 2.00 or higher for DVS-V3232B and DVS-V6464B, and version 3.00 or higher for BKS-R1601/R3202/R3203/R3204/R3205/R3206/R3280/R3281

(3) The data of the primary station backed up by the BZR-10 is all the setup data of the primary station and the status information. The backup data of the secondary station is the setup data of the secondary station and the crosspoint data. The data of the model that does not support the BZR-10 cannot be backed up.

(4) The BZR-10 cannot coexist with the routing switcher control software BZR-1000 at the same time. Quit BZR-1000 before starting the backup operation.
If BZR-1000 is started after the backup operation, call the setup menu of the primary station "Z: SET UNIT DETECTABLE" and change the settings of all secondary stations to OFF (deleting the model code and the question mark "?" on the display).

(5) When the data of the secondary station is backed up, change the station settings to enable (turning on the question mark "?" on the display) using the setup menu "Z: SET UNIT DETECTABLE" before starting the backup operation.

1-3. Operating Environment

- (1) The BZR-10 operates on the MS-DOS version 6.2 or in the DOS mode of Windows '95.
- (2) Use the IBM PC/AT compatible PC in which the MS-DOS and the terminal software have been already installed.
- (3) Only DVS-V6464B and DVS-V3232B with version 2.10 or higher are available as the primary station to which a PC is connected.
- (4) The BZR-10 works interrupting the communication on the S-BUS link. The program has to run while the system is not operating.
- (5) Data of the secondary stations that does not support the BZR-10, cannot be uploaded. If the backup operation is executed to such models, communication may be quit.
If such models are connected on the S-BUS link, change the setting of the secondary stations to OFF (deleting the model code and the question mark "?") on the setup menu "Z: SET UNIT DETECTABLE" of the primary station.

2. Starting Up and Operation

2-1. BZR-10 Installation Procedure

- (1) Insert the BZR-10 floppy disk (abbreviated as FD hereafter) into a FD drive of a PC.
- (2) Select the FD drive (which is "A" drive in this document) in which the BZR-10 floppy disk is inserted. Install the BZR-10 software to a hard disk (abbreviated as HD hereafter) by typing in as follows:

```
C:\>A: ␣ *1  
A:\>install C: ␣
```

- (3) Add a path to AUTOEXEC. BAT using the edit command of MS-DOS by typing in as follows:

```
A:\>C: ␣  
C:\>edit autoexec.bat ␣
```

Add "C: \V6464B" to AUTOEXEC.BAT by typing in as follows:

```
PATH C : \;C : \VZ;C:\TOOLS\BAT;... ;C : \V6464B
```

- (4) Save the AUTOEXEC.BAT file. Quit the edit command.
- (5) Use the Ctrl-Alt-Del key combination to re-start the PC.

*1: "␣" mark means pressing ENTER key.

2-2. Structure Of Menu Display

Menu of the BZR-10 consists of the two levels which are [Function menu] and [Execution menu].

When an item of the [Function menu] is selected, the [Execution menu] appears.

When an item of the [Execution menu] is selected, the desired operation starts.

[Function menu]

```
[[[ Routing Switcher Data Backup Software ]]]
[[[           BZR-10  V1.00           ]]]

1.  RECEIVE: from routing switcher
2.  EDIT
3.  SEND: to routing switcher
- - - - -
9.  QUIT
..... Select a menu item
```

- “1” to “3”: Moves to the [Execution menu].
- “9”: Returns to the DOS environment.

[Execution menu]

When [1. RECEIVE] is selected:

```
[[[ Receive Menu ]]]

1.  All the data of primary station
2.  The data of secondary stations
3.  Description names
4.  Crosspoint data
- - - - -
9.  Quit
..... Select a menu item
```

- [1. All the data of primary station]
Backs up all the data set in the primary station.
- [2. The data of secondary stations]
Backs up the data of the secondary stations which are specified by the setup menu “Z” of the primary station.

Example: When the following setting is specified, the data of the secondary stations which correspond to ID number 2 to 10, are backed up.
(Question mark “?” means the unit is enable.)

SET	UNIT	DETECTABLE										DVS-V6464B V2.10										STATION NUMBER 1									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20										
								+																							
001-020	M	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?																				
021-040																															
041-060																															
061-080																															
081-100																															
101-120																															

[3. Description names]

Data of the description names which are stored in the primary station, are backed up.

[4. Crosspoint data]

The current crosspoint data are backed up.

[9. Quit]

Returns to the [Function menu].

When “2. EDIT” is selected:

```
[[[ Convert / Edit menu ]]]

1. Convert Description name data file to ASCII file
2. Convert Crosspoint data file to ASCII file
3. Edit ASCII file of Description names
4. Edit ASCII file of Crosspoints
-----
9. Quit
..... Select a menu item
```

[1. Convert Description name data file to ASCII file]

Converts the data of the description names which have already been backed up, to text data.

[2. Convert Crosspoint data file to ASCII file]

Converts the crosspoint data which have already been backed up, to text data.

[3. Edit ASCII file of Description names]

Edits the text data of the description name.

The data are returned to the description name file in backup data when the editing is finished.

[4. Edit ASCII file of Crosspoints]

Edits the text data of the crosspoints.

The data are returned to the crosspoint file in backup data when the editing is finished.

[9. Quit]

Returns to the [Function menu].

When "3. SEND" is selected:

```
[[[ Send Menu ]]]  
  
1. All the data of primary station  
2. The data of secondary stations  
3. Description names  
4. Crosspoint data  
-----  
9. Quit  
..... Select a menu item
```

- [1. All the data of primary station]
Sends the stored data, to the primary station.
- [2. The data of secondary stations]
Sends the stored data, to the secondary station.
- [3. Description names]
Sends the description name data to the primary station first, then to all secondary stations which are connected to the S-BUS link.
- [4. Crosspoint data]
Switches the crosspoints according to the stored crosspoint data.
- [9. Quit]
Returns to the [Function menu].

2-3. Backup Mode Operation

2-3-1. Data uploading

After the BZR-10 is installed according to section 2-1, perform the following procedures.

- (1) Turn on the power of all the equipment on the S-BUS link.
- (2) Connect a PC to the REMOTE 3 port of the primary station using the RS-232C cross-cable (9-pins to 25-pins).
- (3) Set the TERM/ISR (S4-3) switch on the CPU-149 board of the primary station to the TERM position.
- (4) Turn on the power of the PC.
When the BZR-1000 is in use, quit it and return to the DOS environment.
- (5) Start up the terminal software of the PC.
- (6) Use the Ctrl-X key combination to call the menu display of the primary station.

- (7) Select "Z: SET UNIT DETECTABLE" and change the settings of the secondary stations which are desired to be backed up, to enable (turning on the question mark "?").
(Refer to the Software Installation Manual supplied with the switcher for details of the menu display and setting procedure in the terminal mode.)
- (8) Use the Ctrl-X key combination to return to the menu display of the primary station.
- (9) Quit the terminal software and return to the DOS environment.
- (10) Insert a formatted FD to a PC drive to save data.
Type in as shown below:

C: \> A: ↵ A: \> A ↵

Note

"A" is the command to start up the backup software.

- (11) Select [1. RECEIVE] of [Function menu].
[Execution menu] display appears on PC screen.
- (12) Select [1. All the data of primary station] from the [Execution menu].
Alternately, select [2. The data of secondary stations] to back up the data of secondary stations.
The data are backed up into a FD.
- (13) Select [9. Quit] twice to quit the backup mode.
The PC returns to the DOS environment.
- (14) Start up the terminal software.
- (15) Use Ctrl-X key combination and call the menu display of the primary station.
- (16) Select "Z: SET UNIT DETECTABLE" and change the settings of the secondary stations.
- When the BZR-1000 is not used:
Return to the previous settings.
 - When the BZR-1000 is used:
Change the settings of all secondary stations which are connected to the S-BUS link to OFF.
- (Refer to the Software Installation Manual supplied with the switcher for details of the menu display and setting procedure in the terminal mode.)
- (17) Quit the terminal software.
- (18) When the BZR-1000 is going to be used, start up the BZR-1000.

In addition, it is convenient if the line numbers of the editor are set to be displayed on screen so that the effective lines (up to 160 line) can be clearly visible.

- (9) Select [9. Quit] to quit the BZR-10.
The PC returns to the DOS environment.

Note

If [1. Convert Description name data file to ASCII file] is executed, the original text file is deleted.

2-4-2. Editing the Crosspoints

The BZR-10 has the function of editing the crosspoints based on the data which are uploaded from the primary station.

After the BZR-10 is installed according to section 2-1, perform the following procedures.

- (1) Insert a formatted FD to a PC drive to save data.
Type in as shown below:

```
C:\>A: ↵  
A:\>A ↵
```

Note

“A” is the command to start up the backup software.

- (2) Select [1. RECEIVE] of [Function menu].
[Execution menu] display appears on PC screen.
- (3) Select [4. Crosspoint data] from the [Execution menu].
The crosspoint data of the primary station are backed up into a FD.
- (4) Select [9. Quit] to return to the [Function menu].
- (5) Select [2. EDIT] of [Function menu].
[Execution menu] display appears on PC screen.
- (6) Select [2. Convert Crosspoint data file to ASCII file] from the [Execution menu].
The stored data are converted to text data, and the “SBUS_XPT.TXT” file is created.
- (7) Select [4. Edit ASCII file of Crosspoints] from the [Execution menu] and perform editing as follows:

Example of edit screen:

L1.001.S1	
LI.4.S5	← This entry is valid even though "0" is not written in the beginning of the number.
L1.003.S6	
L1.010.	← If a source number is not written, the switch-over request is not output.

- The texts are displayed in the order of “label number”, “destination number” and “source number”.
- The level number ranges from level 1 (L1) to level 8 (L8).
- Comments can be written with text using semi-colon “;”.

L1.004.S5 ;	← From this position up to the end of this line, any comment can be written.
-------------	---

- Since text ends in one line, the arrangement in the order of numbers is not necessary.
- (8) When the editing is finished, select [9. Quit] to return to the [Function menu].
The edited text data are automatically converted to the data form which is suited to be sent to the primary station.
If the edited text data includes any portion disabling conversion, the line number of that portion is displayed and the data conversion is suspended. In such a case, return to the edit menu again and correct the specified faulty letters.

Data conversion is valid and applied to all of the edited text lines.

- (9) Select [9. Quit] to quit the BZR-10.
The PC returns to the DOS environment.

Note

If [2. Convert Crosspoint data file to ASCII file] is executed, the original text file is deleted.

Note

- Customization of editor

This manual describes operating procedures on the premises that the editor "EDIT" which is supplied with MS-DOS, is used. However, other editors can be also used. Modify "EDIT" in the batch file according to the editor name.

```
:CC3
CALL EDIT SBUS_NME.TXT
    ↖ Change here to the EDITOR name.
```

```
:CC4
CALL EDIT SBUS_XPT.TXT
    ↖ Change here to the EDITOR name.
```

- Configuration of BZR-10**

File name	Function
A BAT	Execution batch file of EX1
EX1 BAT	The main batch file in which the display messages and procedures are stored.
README TXT	Explanation of operating procedure
TXTTNAME EXE	Converts the text of description name to data.
NAMETTXT EXE	Converts the data of description name to text.
TXTTXPT EXE	Converts the text of crosspoint to data.
XPTTOTXT EXE	Converts the data of crosspoint to text.
UPDOWN EXE	Executes transmit and receive.
INSTALL BAT	Installation program
CLR_DATA <DIR>	
SBUS_LVG DAT	Physical assignment data for clearing table
SBUS_INH DAT	Inhibit table data for clearing table
SBUS_NME DAT	Description name group data for clearing table

Note

Files in CLR_DATA<DIR> can be used after copying from a floppy disk to V6464B<DIR> on the hard disk.

